

大手格付会社が米国債を格下げ

ポイント① フィッチが米国債を格下げ

8月1日、大手格付会社のフィッチ・レーティングスは米国債の格下げを発表しました。格下げ対象は「外貨建て長期債務格付」で、最上位のAAA（トリプルA）から1段階低いAA+（ダブルAプラス）へ引き下げました。今後も米政府の債務負担が増える見通しであることや、債務上限の引き上げを巡る「度重なる政治の膠着と土壇場での解決が示す米国のガバナンスの低下」を反映したと説明しています。

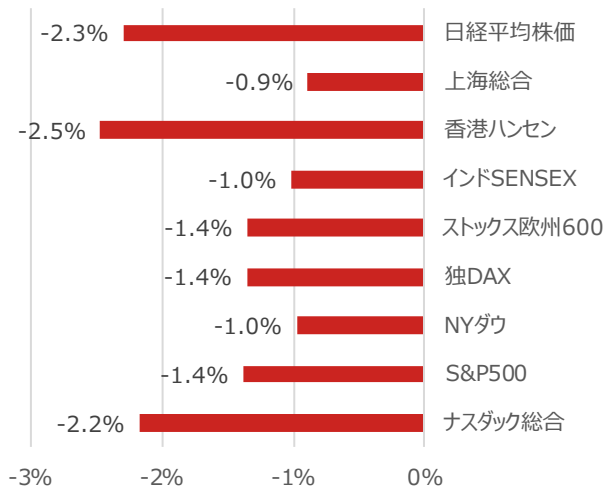
ポイント② イエレン米財務長官は反論

イエレン米財務長官は即座に反論を表明しました。「フィッチの決定は恣意的で、古いデータに基づく」と反論、米政府のガバナンス低下に対しては「債務上限対応、インフラ投資、競争力強化に向けた投資の法案を超党派で可決するなど、改善を見せている」と強調しました。また、イエレン氏は「米国債は世界有数の安全で流動性が高い資産であり、米経済が堅調なことには変わりはない」と加えました。

ポイント③ 市場は世界的株安で反応

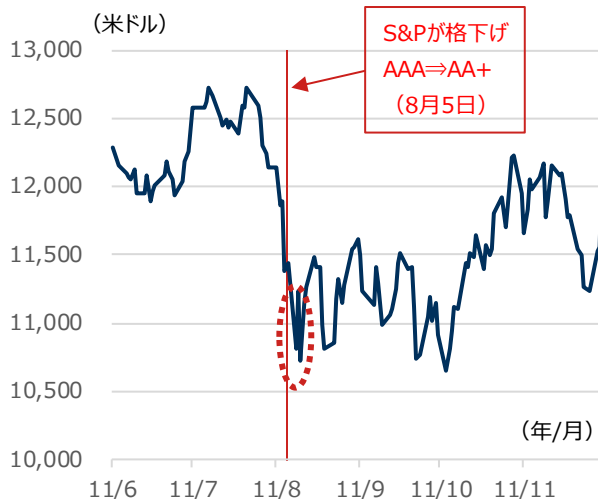
この格下げ発表を受け、2日の世界の株式市場は全面安で反応しました（右上図）。発表が1日米国時間のマーケット引け後だったことで、最初に市場が開いた2日の日本株が朝から大幅安となり、アジア全域、欧州、米国へ伝播しました。しかし、市場関係者の間では、「主要国株式市場は今年に入って大きく上昇してきたことで、利益確定売りの良い口実となったのではないかと」の意見も出ているほか、2011年にS&P（現S&Pグローバル）が格下げした際も2週間ほどで落ち着きを取り戻したことから（右下図）、今回も大きな問題とはなりにくと考えられます。

8月2日の主要国株式市場の動き



期間：2023年8月1日～2023年8月2日
(出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

S&Pによる2011年の格下げ時のNYダウの動き



期間：2011年6月1日～2011年11月30日、日次
(出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

**重要
イベント**

8月4日 米雇用統計 (7月)

8月10日 米消費者物価指数 (7月)